

花と緑の銀行だより

230号 2024.1



文化祭における花の啓発活動(写真：舟橋支店)

目次

- ・花と緑の提言 舟橋村の花と緑のまちづくり(舟橋支店) 2
- ・技術講座 富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン
～ 45 セキヤノアキチョウジ ～(職藝学院 渡邊美保子) 3
- ・緑づくりコーナー 庭木に利用する樹種の特徴と管理
～ 庭木のマツ類をマツノザイセンチュウの被害から守る方法 ～(樹木医 西村正史) 4
- ・ステップアップ研修に参加して(小矢部支店 北蟹谷地方銀行 義浦恵子) 5
- ・「全国花のまちづくりコンクール」で大臣賞受賞(黒部市立若栗小学校) 6
- ・この人あり 花で地域を結ぶ(南砺支店 高瀬地方銀行 頭取 竹田孝正) 7
- ・報告及びお知らせ 50周年記念 花と緑の大会など 8



舟橋村の花と緑のまちづくり

花と緑の銀行 舟橋支店長

舟橋村長 渡辺 光

日頃より花と緑の緑化推進に多大なるご支援とご尽力を賜りますことに、深く敬意と感謝を申し上げます。

舟橋村は、富山平野のほぼ中央に位置し、県都富山市まで電車で15分、車で20分という立地の良い自治体です。村の面積が3.47km²と日本一小さな自治体となっており、中心部には保育施設や小中学校、役場、地方鉄道の駅舎、図書館等が揃っており、村域の端から1 km程度で中心部にアクセスできるコンパクトかつ利便性の高い地域を形成しています。

また、全国で初めて市街化調整区域を外したことや上述の立地の良さから、近年は継続して人口が増加している自治体となっております。その転入者の多くが子育て世代ということもあり、村の平均年齢も若く活気溢れる村というのが特長となっております。

舟橋村は、日本一小さな村、また、図書館での住民一人当たりの貸出冊数26.2冊（1年）と、2つの日本一の冠があり、この日本一の名に恥じぬよう頑張っております。

このような舟橋村の花と緑の銀行事業では、毎年、舟橋駅前花壇、駅ホームの花壇や児童公園などに、サルビアやマリーゴールド等の苗やチューリップの球根の植え付けを行い、また、小学校、中学校など各公共機関に花苗の配布を行っています。これらの花苗を植え付けた花壇の花を見ていただいた村内外の方々の心を明るくし、地域の景観形成に寄与しております。



写真1 駅前花壇の花の植え付け

花と緑の銀行舟橋支店には、現在、1名の頭取とグリーンキーパー2名が在籍しておりますが、他支店同様高齢化が進み、人手不足が課題となっております。

この問題を解決するために、現頭取が、「銀行に人が集まるような仕組みづくりを行わなければならない」と言って、花好きな人をターゲットにし、「緩やかな活動参加」をうたい、その結果70～80歳の女性が多くボランティアスタッフとして参加いただけることになり、来年度からはグリーンキーパーに登録される予定となっております。



写真2 ボランティアによる管理

現在では、参加していただいたボランティアスタッフの生きがいになっており、また、健康促進にも繋がる取組みとして、人が人を呼び込み会員も徐々に増えております。

このように盛り上がってきた舟橋支店ではありますが、今年度は例年の花の植え付けだけではなく、地域を花いっぱいになりたいとの思いから、舟橋村の文化祭に出店し、花苗を配布し、花の啓発促進活動を行いました。

子育て世代がいっぱいの舟橋村ではありますが、来年度、子育て世代のたくさん集まる児童公園の花壇を、地域住民、子育て親子とともに植え付けを行い、花いっぱいにして、花や緑を介し世代間交流の促進と地域の再構築を図り、地域の皆様により一層地域への愛着と誇りを持っていただき、さらなる地域振興、地域活性化に繋がればと考えています。

今後も村民の皆様と一体となって花と緑のあふれる村づくりを推進してまいりたいと考えておりますので、頭取、グリーンキーパー及び村民の皆様には引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、公益財団法人花と緑の銀行をはじめ関係の皆様には、今後ともご協力を賜りますようお願い申し上げます。

富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン ～ 45 セキヤノアキチョウジ ～

職藝学院

教授 渡 邊 美 保 子

セキヤノアキチョウジは、日本原産のシソ科の宿根草です。草丈は120cmほどで、10月初旬から中旬にかけて鮮やかなコバルトブルーの細長い花をたくさん咲かせます(写真1)。空中に浮かんでいるように咲く薄い筒状の花に光があたると、水に溶けてゆく青い絵具のように花色が変化してきれいです。筒状の花の先端を外側に反り返し、うつむきながら咲く姿は楚々とした美しさがあります(写真2)。花は枯れずにそのままの姿で落ちるので、地面がまるで海のように青く染まります。



写真1 セキヤノアキチョウジ。10月中旬。9月下旬に茎はセピア色に染まり弓なりに曲がる。茎の先端に向かって白い玉のような小さなつぼみが現れ、やがて下向きの筒状の花が咲く。針のように細い花柄は墨のように黒く光り、青紫色の花の色をより際立たせる。右後方は、ダルマシオンの茎と葉。

3月中旬になると萌黄色の新芽がふくらんできます(写真3)。前年に開花した茎の基部から木の芽のような新芽がいくつも伸びてくるのです。4月になると、黄緑色の葉が向かい合って開いて一日ごとに茎も伸び、こんもりと茂ります。茎の伸長はとても早く、5月初旬には50cmほど、6月には80cm位になります(写真4)。10月に開花する頃には、120cmに達します。

草丈を低くしたい時には、夏至の頃を目安に茎を地面から10cmほどの所で切ります。残した茎の

節から2つの新芽が再び向かい合って伸びてきて7月中旬には30cmほどに茂り(写真5)、70cm位で花を咲かせることができます。草丈が高くなり倒れてしまう宿根草は、この方法で開花する草丈の調節をすることができます。しかも切ることで、開花を少しだけ遅らせることができます。セキヤノアキチョウジは、花が咲く前の9月中旬頃から葉が黄橙色にくすんでくるため株全体が黄土色に変化しますが、切り戻しをすることで淡い黄緑色の葉を保ちます。

午前中からお昼ごろまで太陽の光があたる場所を好み、西日は嫌います。西側に草丈が130cm程度になるダルマシオンを植えると西日も避けられて、ダルマシオンの青味がかかった茎や葉が背景になり小さな花が引き立ちます。



写真2 10月中旬。筒状の細長い管のような花が咲く。花は下から順に開花してゆく。



写真3 3月中旬。前年開花した茎の基部のあたりから新芽がたくさん出てくる。



写真4 6月初旬。花茎は3ヶ月で80cmほどに伸びる。葉は明るい黄緑色。茎の断面は四角く葉は対生。



写真5 7月中旬。夏至の頃、地面から10cmで切ると、1ヶ月後には新しい茎が30cmほど伸びる。

庭木に利用する樹種の特徴と管理

～ 庭木のマツ類をマツノザイセンチュウの被害から守る方法 ～

日本樹木医会富山県支部

樹木医 西村 正 史

最近県内では、アカマツやクロマツ（以後、マツ類）が夏から秋にかけて急激に枯れていく被害が増加しています。今年は猛暑のためか、海岸地域のマツ類はもちろんのこと、それ以外の地域のマツ類でもこの被害が特に目立っています。この被害については本誌の174号（2010年1月）で簡単に説明しましたが、今回はこの被害が発生する仕組みとともに、庭木として重要なマツ類をこの被害からいかにして守るかを説明します。

1 マツ類が急激に枯れていく仕組み

マツ類の急激な枯れは、カミキリムシの仲間であるマツノマダラカミキリ（写真-1の左）と線虫の仲間である1mm未満の小さなマツノザイセンチュウ（写真-1の右）との共同作業によって引き起こされます（以後、マツノマダラカミキリはマダラ、マツノザイセンチュウをセンチュウ）。

県内では、マダラの成虫が6月中旬から7月下旬にかけて枯れたマツ類から飛び立っていきます。その成虫の体内には多数のセンチュウがいます。飛び立った成虫は、産卵のために健全なマツ類の1～3年生の枝をかじって食べます。センチュウは、その間に成虫からマツ類の枝に移動します。2週間程度経過すると、マツ類の体内ではセンチュウによって水の通り道が破壊され、マツ類全体の水分の減少が始まります。この段階ではマツ類の針葉は緑色なので、外見上は健全にみえます。1ヶ月程度経過すると、センチュウはマツ類の体内で爆発的に増加し、水の通り道を完全に遮断します。



写真-1 左：枝をかじって食べているマツノマダラカミキリ
右：マツノザイセンチュウ

この段階になると、マツ類の針葉は真っ赤になるので、枯れたことがわかります。この時期は夏から秋にかけてです。この頃になると、成虫は産卵可能となっており、衰弱したり枯れたりしたマツ類にのみ産卵できます。センチュウによって枯れたマツ類は絶好の産卵場所なので、産卵します。ふ化した幼虫は内樹皮や辺材部を食べて大きくなり、越冬後は幼虫から蛹になります。センチュウは蛹から羽化した成虫に移動します。そして、成虫は6月中旬から7月下旬にかけて飛び立っていきます。

このような仕組みによって、マダラはセンチュウから産卵場所を提供してもらうことができ、センチュウはマダラによって移動する手段を手に入れることができ、それぞれ単独ではできなかったことが可能となったのです。要するに両者はウインウインの関係です。

2 マツ類の枯れを防ぐ方法

センチュウがマダラの助けを借りて健全なマツ類に侵入して枯れが始まれば、農薬によって防除することは残念ながらできません。しかし、マツ類を守る方法があります。

1つは、マダラがマツ類の枝をかじっている間にセンチュウはマツ類に移動するので、その移動を阻止するためにマツ類の枝に農薬を散布する方法です。散布時期は6月中旬から7月下旬です。梅雨の季節のため、雨が多いと農薬の効果も減少するので、散布回数を増やす必要があります。もう1つは、事前に殺線虫剤をマツ類の樹幹に注入し、健全なマツ類に侵入したセンチュウを阻止する方法です。その効果は最長7年間有効とされています。この方法は確実ですが、3月末日までに処理することが必須条件です。いずれの処理も一般の方で可能ですが、専門の業者さんに依頼された方が確実です。

残念ながら夏から秋にかけて急激に枯れてしまった場合、庭木のマツ類は大きくないので伐採して50cm程度の長さに切断し、燃えるゴミとして処理すればよいと思います。この処理はセンチュウを持った成虫が飛び立つのを阻止するためなので、成虫がマツ類から飛び立つ前、少なくとも翌年の5月末日までに確実に処理することが必須条件です。



ステップアップ研修に参加して ～ 学びと共に花と向き合う ～

花と緑の銀行 小矢部支店

北蟹谷地方銀行 グリーンキーパー 義 浦 恵 子

「これまで、私は真剣に植物と向き合っていただろうか？」ステップアップ研修の中で感じたことです。

一つ目の学びは、マルチングの効果でした。我が家の花壇は、それを怠った為、いつも枯れてしまう花がありました。これまで何の疑問も持たず無知な自分でした。

二つ目の学びは、花柄摘みや剪定によって植物が新芽を伸ばし、新たに花を付け、長期間楽しめるという事も、「目からウロコ」でした。花は一度咲いたら終わり、ではなかったのです。

こうして、花の特質を知る事の大切さを学んだおかげで、地域活動においても、自信を持って作業を遂行することができました。思い返せば、花壇作業の中でも、いろいろな気づきがありました。毎回、花の成長に一喜一憂しながら、道具の使い方、デザイン、花材の選び方等、様々な体験を通して、メンバー同士の絆も深めることができました。

令和5年度の研修は、朝ドラの「らんまん」とほぼ同時進行でした。私達の実習もその効果にパワーを貰いながら集中力を高めてこられた気がします。そんななか、8月に中央植物園で「牧野富太郎の原画展と説明会」が開催され、そこには原画・標本・新種の植物が展示されていました。説明があったおかげで見聞きするものすべて、そして植物学者 牧野富太郎の真摯な姿とその足跡に改めて感動を覚えました。園の企画すべてが目新しく新鮮でした。有難うございました。

さて、50周年を迎えた花と緑の大会で、私達の地区から表彰された方がおられました。常日頃、活動に貢献されているだけに学ぶべき事も多く、人望がある方なので、表彰された姿には感慨深いものがありました。

閉講式当日、思いがけない事がありました。私達の班に、花壇作りに目覚めた人がいたのです。研修を振り返って感想を発表した時の事、彼女の熱く語る姿に衝撃を受けました。チャレンジは、年齢に関係なくいつからでも始められる事を教えられた気がしました。きっと、人の意識を変える程の有意義な研修内容が、彼女を変えたのでしょうか。私にとって、とても良い刺激になりました。

花は 希望を与えてくれる
花は 感動を与えてくれる
花は 人と人を繋いでくれる

学びから得るものは無限大です。

卒業にあたっての感想として、7ヵ月の研修期間中でのワクワク感はとても貴重な体験でした。そしてそれは、新たな活力を生み出す原動力になった気がします。これからもこの気持ちを大切に、グリーンキーパーとしての自覚を持ちながら、地域の中で花の輪を広げる活動に携わっていきたいと思います。

最後になりましたが、長期にわたりご指導いただいた島先生、スタッフの方々に、心よりお礼申し上げます。



4/26 花壇デザイン作成



6/7 マルチング・補植



7/19 メンテナンス



8/30 メンテナンス



10/4 花壇で記念写真

『令和6年度 頭取・グリーンキーパーステップアップ研修』の受講募集は、1月下旬を予定しています。

受講対象は、未受講の頭取・グリーンキーパーさんです。各支店（市町村担当課）までお問い合わせください。

「全国花のまちづくりコンクール」で大臣賞受賞

「第33回全国花のまちづくりコンクール」において、黒部市の若栗小学校が、「花のまちづくり大賞（文部科学大臣賞）」を受賞されました。

本県では令和3年の宮野裕子さん（砺波市）以来2年ぶりで、大賞・最優秀賞の受賞は23回目となります。



写真1 武漢市長に受賞報告

1 「全国花のまちづくりコンクール」について

このコンクールは、1990年に大阪で開催された国際花と緑の博覧会の基本理念である「自然と人間との共生」を継承し、花のまちづくりを全国的に展開することを目的に、1991年から開催され今年で33回目となります。

コロナ禍で一時応募数が減少していましたが、今年は878件と昨年より184件増加し、特に学校部門で応募数の増加が目立ち、昨年の120件が193件となっています。



写真2 東京での表彰式

2 若栗小学校の取り組み

若栗小学校では、校舎を改築して周辺が殺風景になったことから、草花に親しみ、自然との触れ合いを通して子供たちの情操を豊かにしたいという思いを保護者と学校が共有し、1978年にコの字形の校舎に囲まれた中庭に花壇を整備されました。この花壇は、「フラワーランド」の愛称で親しまれ、色鮮やかな円形花壇を中心に、周囲を樹木と多年草の優しい色合いで包むように配置しています。



写真3 令和4年度の「心の花を咲かせよう にじ色フラワーランド」



写真4 花苗の植え付けは高学年と低学年がペアになって行っています。

毎年、花壇のテーマとデザインは、全児童から募集して決めておられます。子供たちのアイデアを花壇に

反映させることで、フラワーランドをより身近に感じられるようにしているとのことです。

子供たちが考えたデザインに合わせて保護者と先生方で畝づくりをしますが、苗づくりや植え付け、水やりなど、花壇管理の中心は、環境委員会の児童です。

また、週に2日は掃除の時間を2学年が合同で花壇の手入れを行う時間に充て、全校児童で花の世話をしておられます。



写真5 月・木週2回の花壇整備の時間に除草等の管理を実施

審査では、45年にわたって花壇活動を続け、地域からも親しまれる花壇をつくっていること、さらに、学校の花壇デザインと植物の組み合わせが素晴らしく、そのテーマとデザインは全校児童からの募集で決定し、栽培管理を行っているという、自主性の高い活動が高く評価されました。



写真6 現地審査の様子
地元地方銀行の頭取・GKさんも参加

また、花のまちづくりの担い手を長年

輩出し、地域内の人材育成においても価値の高い活動となっていることも評価されました。

若栗小学校の校長室前の廊下には、フラワーランドの伝統を常を感じられるようにと、平成19年以降の歴代のフラワーランドの写真が並べて掲示してあります。これにより、児童だけでなく、学校を訪れた誰もが、若栗小学校における花壇の変遷を一目で知ることができます。



写真7 校長室前の廊下に、歴代のフラワーランドの写真が掲示

3 県内からのその他受賞者

今年も県内の各地域における花とみどりのまちづくりが高く評価され、若栗小学校の大賞の他、県内から次の皆さんが受賞されました。

- ・奨励賞 団体部門 小杉花作り同好会
- ・入選 団体部門（3団体）

高岡市立醍醐公民館花と緑の推進部会（高岡市）
市井自治会（射水市）
花と緑の銀行上市支店（上市町）



花で地域を結ぶ

花と緑の銀行 南砺支店

高瀬地方銀行 頭取 竹田 孝正

私が頭取を務める高瀬地区には高瀬遺跡が有ります。1972年に国の史跡に指定され、史跡公園として環境整備が進む中、1974年には花壇も作られ、高瀬地域づくり協議会が管理し、頭取と5名のグリーンキーパーが植え込みや水やり、花がら摘みなど指導をしています。

また、井波地域では南砺市の誕生とともに、井波小学校近くの「山見花壇」を「八乙女花壇」と名付け委員会を立ち上げました。委員会ではグリーンキーパーの意見を聴き、花壇テーマや構図を決め、草花の選択をしています。花苗が配布されると、6月上旬頃にグリーンキーパー全員で集まり、草花を植え込みます。その後、井波、南山見、山野、高瀬の各地方銀行が1週間交代で管理を行ない、作業日誌を付け、次の週の方へ作業内容を伝えます。そして、毎月最終土曜日の早朝に、全員で除草や水やりなどの管理作業を行います。その時には活発な意見交換も行われるなど交流の場にもなり、時には、花苗や野菜などを持ち寄り朝市のようになったりもして、親睦を深める楽しい時間となっています。



写真1 花苗植え込み作業

八乙女花壇は小学校の通学路にあり、児童や市民の憩いの場です。「いつも家に帰るとき、花壇を見えています。疲れているときや悲しいことがあった時は、癒されて元気になります。これからもお体に気を付けて、たくさんのお花のお世話をよろしくお願いします。」と児童たちから感想をもらおうと活力に

なり、みんなでこれからも頑張っていきたいと思っています。

私は、井波、南山見、山野、高瀬と4つの地方銀行がある井波支所の支所長も務めております。年度末には4地方銀行の頭取とグリーンキーパーみんなで集まり、1年の反省をし、新年度の行事計画を決めます。その際には、寄せ植えや講習会等を行い、各々の技術力向上を目指しています。



写真2 総会後の寄せ植え教室

そして、昨年は4年に1度の『南砺市いなみ国際木彫刻キャンプ2023』が、8月18日から30日まで開催されました。開催地である井波支所として、ロシアの侵略攻撃を受けているウクライナの国花であるひまわりのプランターを制作して世界平和を祈り、彫刻師さんや来場者を歓迎したいと考え、種播きから管理しました。会場となった井波芸術の森イベント広場を花いっぱい装飾し、プランター、ハンギングバスケットや寄せ植えなどで華やかに飾り付けました。猛暑が続くなかでの日々の管理は大変でしたが、花と緑の銀行としての活動紹介の場にもなる、良い機会となりました。

これからも緑化推進に微力ながら協力させていただきたいと思っています。



報告コーナー

「富山県花と緑の祭典 2023 置県 140 年記念・財団設立 50 周年記念花と緑の大会」を開催

- ・「50周年記念花と緑の大会」を、10月24日（火）に富山県民会館において開催しました。
- ・大会では、花と緑の功労者表彰（知事表彰3個人2団体、理事長表彰26個人6団体）、感謝状の贈呈（5個人1団体）及び県花と緑のコンクール入賞者表彰（9個人25団体）が行われました。
- ・また、50周年を記念して、「花と緑の宣言」や銀行活動の特別展示～50年のあゆみ～も行われました。
- ・花と緑の講演会では、フラワーデザイナーアトリエQuelle（クヴェレ）主宰の高木優子さんから、「花の流通・消費とフラワーデザインの魅力」と題して講演いただきました。高木さんには翌25日にスワッグ講習会も開催していただきました。



お知らせコーナー（1月～3月の主なイベント）

花とみどり・ふれあいフェア

- 1 日 時 令和6年2月17日（土）10：30～17：00 2月18日（日）10：00～16：00
- 2 場 所 フューチャーシティ ファボーレ（富山市婦中町下轡田165-1）
- 3 主な内容
 - （1）花と緑の展示コーナー
 - ・コンテナガーデンコンテスト：2月9日（金）～18日（日）
 - ・「わたしの寄せ植え」展：2月12日（月）～18日（日）
 - ・花と緑のコンクール入賞作品展：2月9日（金）～18日（日） など
 - （2）花と緑の体験コーナー
 - ・花束づくり、寄せ植え など
 - （3）その他
 - ・花の種無料貸し出しコーナー など

富山県中央植物園

- 第11回クリスマスローズ展 2月23日（金・祝）～25日（日）
 - ◆栽培講習会 24日（土）・25日（日）14：00～15：30
 - 第52回富山県蘭まつり大会 3月1日（金）～3日（日）
 - ◆栽培講習会 2日（土）・3日（日）10：30～12：00、14：00～15：30
 - 第20回雪割草富山県大会 3月8日（金）～10日（日）
 - ◆栽培講習会 9日（土）・10日（日）14：00～15：30
 - サクラの企画展（今後行事名称を変更することがあります。） 3月22日（金）～
 - 第13回さくらまつり 3月下旬～4月中旬の土・日を含む4日間（開催日は開花状況によります。）
- ※講習会の参加は無料ですが、別途入園料が必要です。（詳細はHPをご覧ください。お問い合わせは富山県中央植物園へ。）

県民公園 頼成の森

- 竹スキーづくり教室 1月28日（日）9：30～12：00 定員：20名 参加費：600円
 - 守り人と歩く頼成の森 2月4日（日）9：30～13：00 定員：20名 参加費：500円
- ＜冬の森の中を探検しよう＞
（詳細はHPをご覧ください。お申し込み・お問い合わせは県民公園 頼成の森へ）

◆お願い

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止等のため、各行事の中止や内容の変更を行う場合があります。ご理解のうえ、各行事の詳細についてはその都度担当部署へお問い合わせください。

編集発行 公益財団法人 花と緑の銀行
〒939-2713 富山市婦中町上轡田42
TEL 076-466-2425 FAX 076-465-5923
<https://www.bgtym.org/fgbank/>

富山県中央植物園
〒939-2713 富山市婦中町上轡田42
TEL 076-466-4187 FAX 076-465-5923
<https://www.bgtym.org/>

県民公園頼成の森
〒939-1431 砺波市頼成156
TEL 0763-37-1540 FAX 0763-37-1450
<https://www.bgtym.org/ranjyounomori/>



花と緑の銀行だより 230号

発行日 令和6年(2024年)1月
再生紙を使用しています。